



TG125 Owner's Manual



Royal Alloy



はじめに

この度はロイヤルアロイ（Royal Alloy）のスクーターをご購入いただき、ありがとうございます。ロイヤルアロイの製品は、高い技術力と信頼性に裏打ちされた商品であり、製造するRAエンジニアリング社とそのパートナー企業とが持つ、モーターサイクルやスクーターを製造してきた深い経験や、広範な知見を活用して設計されています。ロイヤルアロイ製品が市場をリードする立場にあるのは、こうした実力があるからこそ、と言えるでしょう。本マニュアルではこのスクーターの使用方法、操作、基本的な点検やメンテナンスなどについて示しています。マニュアルに記載がなくお分かりにならないことがあった場合は、ご購入された販売店にお尋ねください。

ロイヤルアロイ製スクーターは、製造日時点で課せられる環境規制に適合した商品です。規制適合状態を維持するためにも、本マニュアルに記載された指示やメンテナンススケジュールを守って維持してください。

⚠ 注意

必ずお守りいただきたい事項、手順が示されています。指示をお守りいただき、安全性を担保してください。

⚠ 注目

商品への損傷などを避けるために必要な手順が示されています。

⚠ 警告

ご自身や周辺の方にけがが及ぶような危険、あるいは商品への損傷が及ぶ可能性を避けるために必ず従ってください。

⚠ 注目

このマニュアルはスクーターの一部として取り扱いいただき、譲渡されるときも含め、常時携帯してください。

⚠ 注目

RA エンジニアリング社は商品品質の向上に日夜全力を傾注しています。本マニュアルは印刷時点における最新の情報を網羅していますが、実際の車両とは異なる場合があります。もしご質問などがある場合は、ご購入元の販売店にご相談ください。

⚠ 警告

スクーターにお乗りになる前に、本マニュアルを注意深くお読みください。

目次

安全にお楽しみいただくために.....	4	ブレーキの効きと遊び.....	18
各部の名称について.....	5	フロントブレーキとアンチダイブリンケージ.....	18
車台番号/エンジン番号.....	7	タイヤ.....	18
各部の機能と操作.....	8	燃料、エンジンオイル、トランスミッションオイル.....	18
インストールメントパネル.....	8	イグニッションユニットおよび灯火類.....	20
イグニッションスイッチ.....	9	ご乗車に当たって.....	21
左ハンドルパーススイッチ.....	10	エンジンの始動.....	21
右ハンドルパーススイッチ.....	11	走行開始.....	21
燃料油キャップ.....	12	点検とメンテナンス.....	23
シートロック.....	13	初回点検.....	23
フロントラゲージボックス.....	14	メンテナンススケジュール.....	24
燃料及び油脂類について.....	15	バッテリー.....	25
燃料.....	15	スパークプラグ.....	26
エンジンオイル.....	15	燃料ホース.....	27
トランスミッションオイル.....	15	エアフィルター.....	28
慣らし運転について.....	16	タイヤ.....	28
始業前点検について.....	17	ヒューズ.....	29
		トラブルシューティング.....	30
		車両を保管する場合.....	31
		諸元表.....	32

安全にお楽しみいただくために

交通法規を守り、安全第一でライディングを楽しみましょう。スピードを控え、安全の範囲内でスクーターを走らせましょう。

走り出す前に練習を

混合交通に乗り出す前に、広く、また交通量の少ない場所でスクーターの操作に慣れるように練習してみましょう。練習は安全のためには不可欠です。ライディングのためのトレーニングを受講したり、必要に応じて試験や資格等の取得も公道に出る前に行いましょう。

ご自身の安全速度を知りましょう

安全な速度とは、道路状況や、天候、または運転技術などによって異なります。ご自身にとって安全な速度を知っておくことは、交通事故などから身を守る一助ともなりません。

雨天には気を付けて

濡れた路面や湿った路面を走行することは危険です。高速走行は避け、またカーブを曲がる時などは特に注意して走行しましょう。雨天時のブレーキ距離は、好天時の倍以上にも伸びる恐れがあることもよく理解しておくこと。

正しくライディングに適したヘルメットを着用しましょう

スクーターに乗るときには必ずヘルメット着用しましょう。顎ひもを締め正しく着用することを忘れずに。

安全な服装に留意しましょう

比較的明るい色彩の、またよく身体に合った服を選びましょう。規格に合格したプロテクターも有効です。グローブも必ず装着してください。

必ずお守りいただきたい保守・点検

下記の各項を必ずお守りください：

- ◇ 始業前点検を必ず行うこと
- ◇ 半年ごとに定められた点検を行うこと。
- ◇ 1年ごとに定められた点検を受けること
- ◇ メンテナンススケジュールに示す点検内容に従うこと。

高温に注意

マフラーは高温になり、やけどする恐れがあります。通行人などがマフラーに触れてやけどする恐れが無いよう、駐車時には十分に注意してください。

不正な改造を行わないこと

車両の安全性を確保するためにも、改造などを行わないこと。

各部の名称について

スクーターをお使いになる前に、それぞれの部品の名称について理解しましょう。

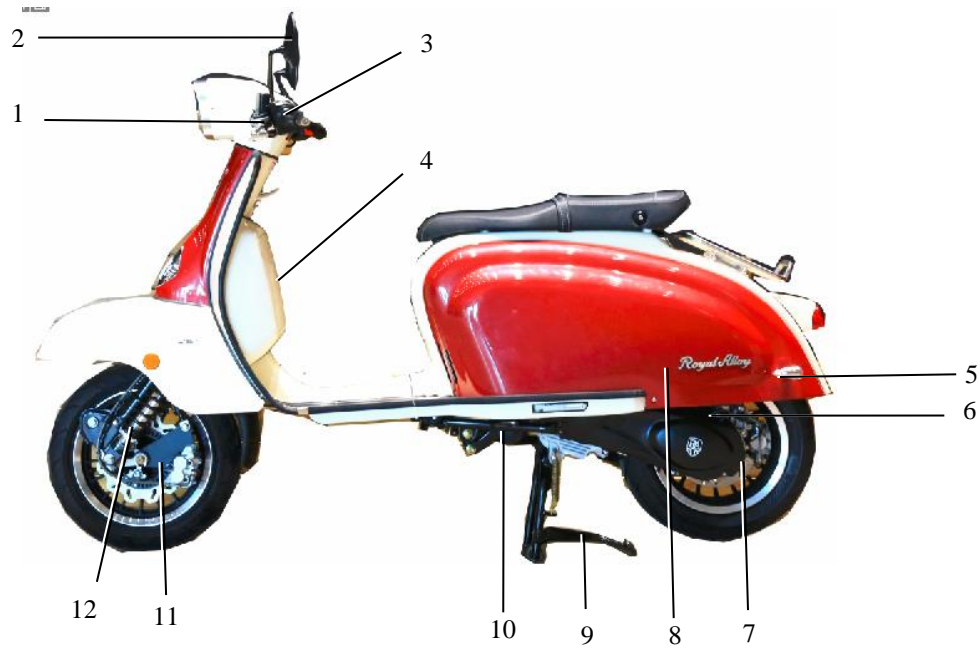
1. エキゾースト・マフラー	4. シート	7. フロントウィンカー
2. テールライト/ブレーキライト/ナンバープレート灯	5. スロットルグリップおよび右集中スイッチ	8. サイドリフレクター
3. リアキャリア	6. ヘッドライト	9. フロントショックアブソーバー（右）



警告

リアキャリアの最大荷重は 5 kg です。

1. リアブレーキレバー	5. リアウinker	9. メインスタンド
2. 後写鏡 (バックミラー)	6. リアショックアブソーバー	10. サイドスタンド
3. 左グリップスイッチ	7. リアディスクブレーキ	11. フロントディスクブレーキ
4. グローブボックス	8. エアフィルター	12. フロントショックアブソーバー (左)



車台番号/エンジン番号

エンジン番号

エンジン番号はクランクケース後部に打刻されています。

注目：

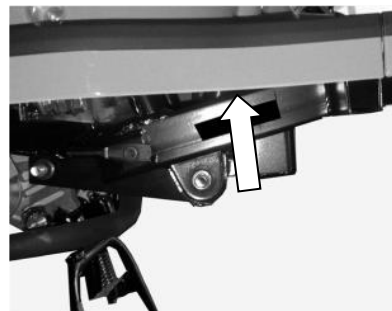
補修部品を正しく発注するためにも、車台番号を控えておきましょう

車台番号

車台番号は、車体右側フレームレールに打刻されています。



エンジン番号



車台番号

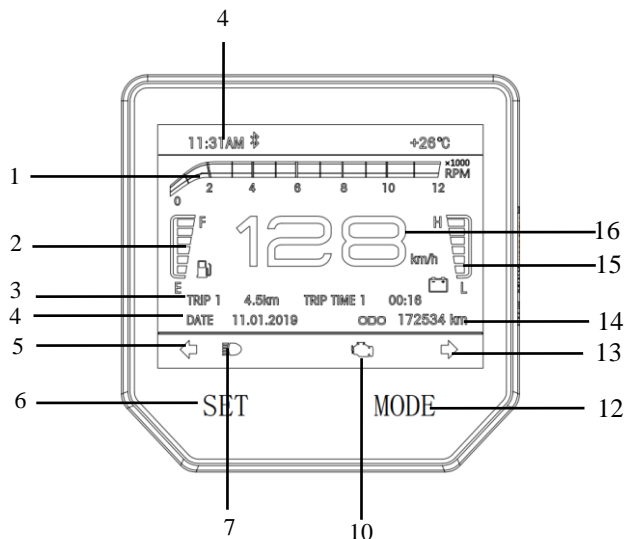
それぞれの番号を以下に控えておいてください。

車台番号：

エンジン番号：

各部の機能と操作

インストゥルメントパネル



1 - タコメーター

エンジンスピード（回転数）を表示します。

2 - 燃料ゲージ

燃料タンク内のガソリンの残量を示します。ゲージが F を示しているときは満タン、E またはそれ以下の場合は早急に給油が必要な状態を示しています。

3 - トリップメーター

リセットして以降の走行距離を示します。

4 - 日時及び時刻

日時及び時間を表示します。

5/13- 右/左ウィンカーインジケーター

ウィンカースイッチを左に入れば左側の、右に入れば右側のインジケーターが点滅します。

6/12 - 表示機能変更ボタン

SET 1 回押し：KPH ⇔ MPH の変更。

MODE 長押し：TRIP のクリア（ゼロに）

SET 長押し：時計セッティングモード

各部の機能と操作

このモードに入ると、「月」の桁が点滅します。MODE ボタンを短く押すことで、現在の「月」に移動し、SET を一回押すと続いて「日」「年」「午前」「午後」「時刻」へと移動していきます。すべての設定が終了し、SET ボタンを長押しすると、セッティングモードは解除されます。また、操作中であっても 15 秒間何の入力もない場合は、自動的にその状態が保存され、モードは解除されます。

7 - ハイビーム表示

10 - エンジン警告灯

もし乗車中にこの警告灯が点灯した場合は、直ちにお買い求めの販売店に相談してください。

14 - オドメーター

新車からの積算距離を表示します。

15 - バッテリーインジケーター

バッテリー電圧を表示します。Hにある時には満充電状態、Lまたはそれ以下の場合、補充電が必要となります。

16 - スピードメーター

現時点での走行速度を示します。

イグニッションスイッチ

ON	エンジン始動可能 走行可能 キーの取り外し不可
OFF	エンジン始動不能 エンジンを停止 キーの挿入及び取外しが可
LOCK	ステアリングハンドルを 1 方向に固定 キーの挿入及び取外しが可

車両から離れる際には、ステアリングロックを行うことで、盗難されにくくなります。

1. ハンドルバーを左に切ります。
2. イグニッションキーを差し込み、キーをさらに押し込んで左に回し、「LOCK」の位置に合わせます。
3. キーを抜きます。

警告

イグニッションキーを ON にする前に、充電された正しいバッテリーが確実に接続され、緩みなどがないことを確認してください。

ステアリングロックの解除は、ロック位置にあるキー穴にイグニッションキーを差し込み、押し込まずにそのまま右側にキーを回して OFF の位置に合わせることで行います。



左側ハンドルバースイッチ



1. ビーム・スイッチ

ヘッドライトの向きを入れ替えるために使用します。

HIGH	ハイビーム（上向き）になります。
LOW	ロービーム（下向き）になります。 （通常はこちらを使用します）

注目：

- ◇ ハンドルバーを動かし、確実にロックされていることを確認しましょう。
- ◇ ロックしづらい時は、わずかに右側にハンドルバーを動かすとロックできることがあります。

2. ホーンボタン

押すとホーンが鳴ります。

3. ウィンカースイッチ

安全な方向転換やレーンチェンジのために、右もしくは左へのターンシグナル（ウィンカー）を点灯させるためのスイッチです。

右	右側のウィンカーが点滅します
左	左側のウィンカーが点滅します。
中央	中央位置でボタンを押し込むことで、ウィンカーの点滅をキャンセルすることができます。

ウィンカー（方向指示器）はその必要がない場合には適宜消灯し、他の交通の妨げにならないように注意しましょう。

右側ハンドルバースイッチ



4. スターターボタン

エンジンを始動させるときに押します。イグニッションキーを ON にし、リアブレーキレバー（6）を握り、ボタンを押してください。リアブレーキレバーを握り、かつサイドスタンドを格納していないと、エンジンはかかりません。

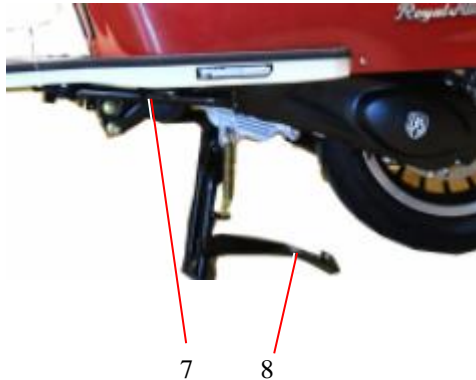
5. スロットルグリップ

スロットルグリップは、スピードを調整するために使用します。手前にひねることで（反時計回りに回すことで）エンジンスピ

ードは上昇します。奥に回すことで（スロットルグリップを戻すことで）エンジンスピードを減速させることができます。

6. ブレーキレバー

スロットルグリップは、スピードを調整するために使用します。手前にひねることで（反時計回りに回すことで）エンジンスピードは上昇します。奥に回すことで（スロットルグリップを戻すことで）エンジンスピードを減速させることができます。ブレーキライトは、レバーが握りこまれたときに点灯します。



7. サイドスタンド

サイドスタンドは、サイドスタンド後端を強く押し下げ、前方向に止まるまで回転させることで使用します。サイドスタンドが完全に格納されていないと、エンジンは始動できません。

8. メインスタンド

サイドスタンドは、サイドスタンド後端を強く押し下げ、前方向に止まるまで回転させることで使用します。サイドスタンドが完全に格納されていないと、エンジンは始動できません。

燃料油キャップ

燃料油キャップは、シート下に用意されています。キャップをあけるには鍵穴にイグニッションキーを挿入しタブを時計方向に捻りましょう。キーとタブは並行に動きますから、どちらか一方だけを強引に回して開けることが無いように注意してください。キャップを閉めるときには逆の手順で行います。

操作上の注意（Operation Notice）ステッカーが、給油口近くに貼付してあります。

Operation Notice

When the key is inserted, the oil fillingport can be opened or closed unless the key and lock cover were rotated at the same time.



注意

キーを挿入し、キーとキーカバーを同時に反時計回りに回すことで、キャップを外し、給油口が現れます。

シートロック



シート開閉の手順は以下の通り

1. シート左側後席部に用意された、シートリリースボタンを押し、シートを開きます。
2. シートを閉じるには、シートをゆっくりとシートロックピンに入るように閉めます。

フロントラゲージボックス



⚠ 注意

- ◇ 壊れやすいものは入れないこと
- ◇ 貴重品を入れないこと
- ◇ 燃料や油脂類を入れないこと
- ◇ 濡れて困るようなものは入れないこと
- ◇ ラゲージボックスのロックを忘れないこと
- ◇ ラゲージボックスの最大荷重は 5 kg です
- ◇ リアキャリアの最大荷重は 5 kg です

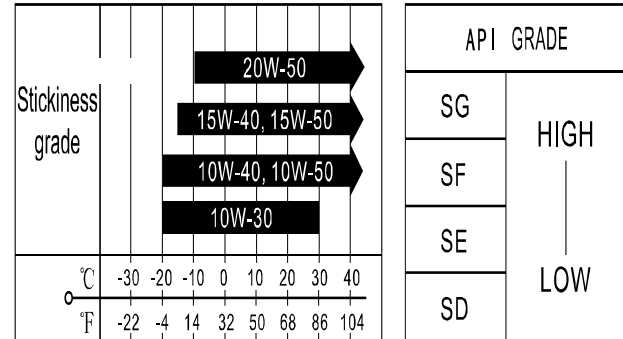
燃料及び油脂類について

燃料（ガソリン）

オクタン価 90 以上の無鉛ガソリンのみを使用してください。有鉛ガソリンや添加剤の使用は、特に排ガス浄化装置（キャタリティックコンバーター）を損傷させかねません。

エンジンオイル

エンジンの性能を維持し、寿命を保つためにも、高品質の 4 サイクルエンジン用半化学合成油を使用してください。オイル粘度は SAE 10W-40 以上、API 指数 SE または SD のオイルを使用すること。推奨品は MOTUL SCOOTERPOWER 5W-40。同等のオイルを入手するため、下記の年度表を参考にしてください。



トランスミッションオイル

高品質の EP 80w-90 相当品のギアオイルを使用してください。推奨品は MOTUL GEARBOX 80W-90 です。

慣らし運転について

お使いのスクーターの寿命を決定づけるのは、最初の 1000 kmとされています。この間、正しい慣らし運転を行うことで、スクーターの寿命は最大化され、また存分にその実力を発揮するようになります。製造工程で用いられる部品は極めて高品質な素材で製造され、最大限の精度（最小限の公差）をもって作り上げられています。正しい慣らし運転によって、磨き上げられた金属の表面は柔らかなベッドのように調整され、その後のエンジンのスムーズな動きにつながるでしょう。おおむね 60 時間程度の走行で内部部品の感触が向上し、この慣らし期間中にエンジンは柔らかく滑らかに動くようになり、性能は向上するのです。

慣らし期間中のスロットル開度について

以下の表に示したように、慣らし期間中はアクセルの開度を控えて運転しましょう。

最初の 800 kmまで	スロットル開度は 1/2 以下
801～1600 kmまで	スロットル開度は 3/4 以下

エンジン回転数は幅広く試みましょう

エンジン回転数は一定で走ることなく、様々な回転数を試みましょう。これによってエンジン内部の各部品に適切な負荷がかかったり、休められたりして、慣らしが進行していきます。慣らし運転にはある種の負荷をかけることが必要なものなのです。とはいえ、過度な負荷をかけることが無いよう、アクセル開度の上限を守って、適切にエンジンを回してあげてください。

連続した低速度での走行はやめましょう

慣らし期間中に一定の低速度でエンジンを走らせることは避けてください。加減速を自在に、決められた範囲内で。ただし最初の 800 kmまでは絶対にアクセル全開にはしないこと。

走り出す前にオイルを各部に行きわたらせましょう

エンジン始動後、負荷をかけたり回転を上げたりする前に、エンジンを十分に暖気してオイルを各部にいきわたらせましょう。オイルはエンジンにとっての血液です。エンジンの寿命を永らえるためにも、この工程を忘れずに行いましょう。

初回点検を必ず受けましょう


エンジン始動後、負荷をかけたり回転を上げたりする前に、エンジンを十分に暖気してオイルを各部にいきわたらせましょう。オイルはエンジンにとっての血液です。エンジンの寿命を永らえるためにも、この工程を忘れずに行いましょう。

注意

初回 1000 km点検は本マニュアルのメンテナンス・セクションに詳述されています。十分に同項の警告や注意に着目しながら点検を実施してください。適切な点検を受けなかった場合、車両の保証の適用外となります。

始業前点検について

スクーターに乗る前に、以下の各項の始業前点検を行いましょう。点検を軽んじず、必ずすべての項目を点検してから乗車してください。

 警告	
バッテリーが満充電であること、バッテリーが適切に固定されていること、バッテリーのターミナルやコネクターがきちんと固定されていることをまず確認してください。バッテリーとコネクターのゆるみは、ECUのような重要電装部品を破壊しかねません。	
点検部位	点検内容
ステアリング	1) スムースに左右に動くこと 2) 動きに引っ掛かりや違和感がないこと 3) 不必要な遊びやがたつきがないこと
ブレーキ	1) レバーの遊びが適切であること 2) ブレーキの作動に異常がないこと
タイヤ	1) 適切な空気圧であること 2) 十分に溝の深さが残っていること 3) ひび割れ、切り傷などがいないこと
燃料	十分な燃料が入っていること
灯火類	ヘッドライト、テールライト、ブレーキライト、ウィンカーなどすべての灯火類が作動すること
インジケーター	オイル警告灯やその他の警告灯の不具合がないこと
ホーン	正しく機能すること
エンジンオイル	正しいレベル（量）にあること
スロットル	1) スロットルの遊びが適切であること 2) スロットルを離れた際に、スムーズかつ適切に全閉まで戻ること

ブレーキの効きとレバーの遊び

ブレーキレバーをブレーキが利き始める（握って硬さが感じられる）まで握りこみます。レバー先端の移動距離（遊び）が10-20mmになるよう調整してください。

フロントブレーキとアンチダイブリンケージ

アンチダイバーを側方から捻り、遊びがあることを確認しましょう。上下方向に大きな遊びがある場合は取り外して点検、場合によっては交換が必要です。

タイヤ

1. タイヤの空気圧

タイヤの状態を外観からよく確認し、次いで空気圧を点検します。タイヤ空気圧が異常な場合、以下の推奨空気圧に調整してください。

フロントタイヤ	32psi
リアタイヤ	34psi

2. ひび割れ、痛み、異物の噛みこみや刺さり、異常損耗

タイヤの表面を点検しましょう：

- ◇ 明らかなタイヤの異常や損傷はないか？
- ◇ 釘や石、ガラスの破片などがタイヤの溝に刺さっていないか？
- ◇ 異常摩耗、偏摩耗はないか？

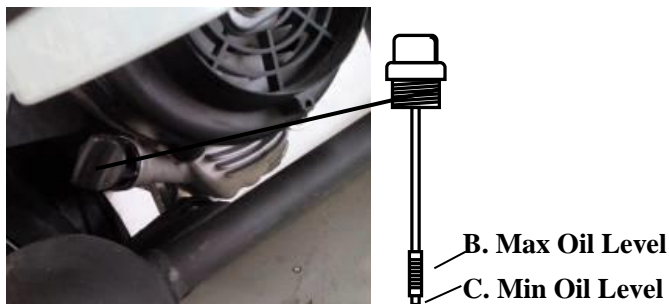
燃料残量の点検

目的地に行くか、近隣のガソリンスタンドまで行ける十分な量の燃料があることを確認しましょう。もしメインキーをONにした時の燃料ゲージの表示が赤を指している場合は燃料切れが間近ですから、なるべく早く給油してください。

オイル残量（レベル）の点検

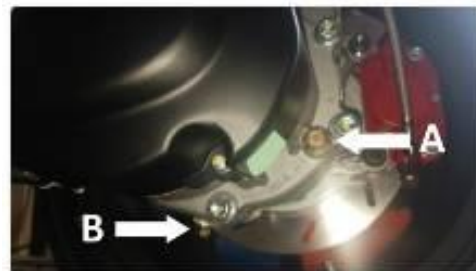
注意！オイルレベルは必ずゲージの上限、図のBまでの間にあるようにしましょう。エンジンに深刻なダメージを与える恐れがあるため、上限値B以上の量を入れたり、下限Cの位置を下回ったりしないよう、注意し

てください。エンジンオイル量の適切な管理は、使用者の義務です。



1. 車体をメインスタンドを用いて水平状態に固定します。
2. エンジンを始動し、オイルが十分にエンジンにいきたったのち、エンジンを停止させます。
3. 5 分間待ちエンジンオイルがクランクケースまで戻ってから作業を開始します。
4. オイル注入キャップ/ディップスティックを緩め、外します。
5. ディップスティックに残っているオイルをきれいに拭い、再び所定の位置に入れます。ただし、ねじ込まないこと。オイルに漬けた後すぐに取り外し、オイルレベルを確認します。オイルレベルが図示の B と C の間にあることを確認してください。
6. 必要に応じて、オイル(MOTUL SCOOTERPOWER LE)を継ぎ足してください。ただし、上限値である図の B を超えて入れることが無いように注意すること。
7. ディップスティックを確実にねじ込んで取り付けてください。

トランスミッションオイルレベルの点検



1. エンジンを始動し、オイルが十分にエンジンにいきたるようアイドリングさせ、エンジンを止めます。5 分間待ってからオイルレベルの点検を行います。
2. 図(A)のオイルフィラースクリューを緩め、オイルレベルがオイルフィラーのちょうど注入口にあることを確認します。
3. 必要に応じて、図 (A) からトランスミッションオイル (ハイポイド EP80W-90 MOTUL Gearbox 80W-90) を補充してください。
4. トランスミッションオイルの交換には、ドレンプラグ(B) を抜き、すべてのトランスミッションオイルを抜き去ってください。オイルフィラー口から新しいオイルを必要量注入してください。
5. オイルフィラースクリュー(A)を締め付けてください。

イグニッションユニットおよび灯火類

エンジンを始動し、ヘッドライト及びテールライトが点灯することを確認します。

前後のブレーキを別々に作動させ、ブレーキライトが点灯することを確認してください。また、ターンシグナルスイッチを操作し、ウィンカーがきちんと動作することを確認してください。

リフレクター及びナンバープレート

C ライセンスプレートやリフレクターが汚れていたり、ダメージがないことを確認しましょう。ナンバープレートは確実に取り付けられリフレクターも汚れやダメージがないことを確認しましょう。

ご乗車にあたって

⚠ 注意

エンジン始動前に、必ず以下を確認しましょう

1. 燃料とエンジンオイルの量を点検
2. スクーターをメインスタンドで立てる
3. 車体が水平かつ硬質な路面に立てられ安定していること
4. ブレーキをかける

エンジンの始動

イグニッションキーを挿入し、右に捻って ON にします。

エンジンが冷えているときは

1. 前または後のブレーキレバーを握り、スロットルを 1/8-1/4 回転程度開けて保持します。
2. エンジンがかかるまでスターターボタンを押します。
3. スロットル開度を約 30 秒ほどそのまま保ち、エンジンがストール（停止）しないよう、エンジンが温まるのを助けます。

エンジンが温まっているときは：

1. 前または後のブレーキレバーを握り、スロットルを 1/8-1/4

回転程度開けて保持します。

2. エンジンがかかるまでスターターボタンを押します。

⚠ 注意

エンジンがかかったらすぐにスターターボタンから手を離すこと。そうしないと、スターターモーターやリンクギアに損傷を与える可能性があります。もし何度か試行してもエンジンが始動しない場合、スロットルグリップをさらに 1/8~1/4 回転開け、再始動してみてください。スロットルグリップはひとたびエンジンが始動したらすぐに戻してください。

走行開始

メインスタンドを外し、スクーターにまたがりましょう。

ハンドルバーを両手で持ち、前後のブレーキを保持しながら、左側から乗車します。シートにまたがり左足で体を支えましょう。

⚠ 注意

走り出すまでスロットルグリップを開かないこと

周囲をよく見て、安全に発進できることを確認します。

方向指示器（ウインカー）を出し、周囲をよく確認して走り出しても問題ないことを確認して下さい。走り出すまではリアブレーキレバーを確実に握っておきましょう。

⚠ 注意

特に後方から接近する車両などに十分注意を払うこと。

走り出しましょう

リアブレーキレバーを離し、スロットルグリップを徐々に開けて、スクーターを加速させていきましょう。

⚠ Caution

スロットルグリップを大きく開けすぎると、急加速などの危険を引き起こしかねません

スピードを調整します

スクーターを走らせるスピードは、スロットルグリップのひねり具合で調整します。グリップを手前側にひねれば速度が増しますから、ゆっくりとひねり引き込みます。ブレーキは徐々にかけ、急ブレーキを避けるとともに、特に濡れた路面や荒れた路面では十分に注意を払いましょう。

⚠ 注意

前後いずれかのブレーキを強く握ることは、スリップの危険性につながります。急ブレーキや急旋回はトラクションの喪失や事故の第一原因です。こうした急激な操作は避けましょう。

雨天や冬季には路面の状況に気を付けて。

荒れた、あるいは濡れた路面はタイヤのグリップを低下させます。こうした条件では加速中の急旋回などは避けましょう。前方の車両とは適切な車間距離を維持しておきましょう。雨天時の制動距離は一般に乾燥した路面の 2 倍程度に上ることを理解し、注意を払って運転しましょう。

スリップは濡れた路面や凍結路面では避けられないものです。従い、運転に集中し、いつでも速度を落とせるよう十分に注意して運転しましょう。

雨天走行の後や洗車後は、ブレーキをよく点検。

スクーターを洗車した後や、水たまりを走り抜けた後などは、制動力が弱まっていることがあります。ブレーキが通常通り動作するように、速度を落とし、丁寧なブレーキングを行って様子を見ましょう。

⚠ 注意

点検とメンテナンス

スクーターをメインスタンドで直立させているときは、転倒しないよう、必ず水平な地面の上に保持し、下り坂を向けたり、柔らかい路面に立てたりしないこと。必ずスクーターは水平面か、坂の上を向けて直立させ停車すること。

ハンドルバーをロックしましょう

スクーターを停車させるときは、必ずステアリングロック（ハンドルバーロック）を行い、盗難されないようにしましょう。

点検とメンテナンス

メンテナンススケジュールには、定期点検の間隔について期間と距離が示されています。それぞれ定められた期限の早い方が来たら、指示に従って車両を点検、調整してください。もしお使いの環境がスクーターに大きな負荷がかかるような状況、例えば頻繁にエンジンを全開にしたり、埃っぽく空気の汚染された環境下であったりした場合には、こうした定期点検はより頻繁に（短期間あるいは短走行距離で）行いましょう。そうすることで、スクーターの信頼性を維持できるようになります。お買い求めの販売店はさらに詳しく説明できますから、ご遠慮なくご相談ください。ステアリング関係の部品やサスペンション、ホイールなど操舵系の部品は非常に重要な部品であり、極めて注意深く取り扱い、点検する

必要があります。安全を最大限確保するためにも、これらについてはお買い求めの販売店か、有資格のメカニックの手に委ねましょう。

初回点検

1000 km走行時の初回点検は最も重要です。慣らし運転期間中に、あらゆる部品は互いに擦り合わされ、エンジン内部の熟成がすすみます。初回点検ではこうした部品のすり合わせを調整しなおし、締結部品の正しいトルクでの締め直しを行い、汚れたエンジンオイルとフィルターの交換を行います。

エンジンの寿命を長く保ち、存分に能力を発揮できるよう、初回点検はタイミングが来たら速やかに行ってください。

注意

必ず交換部品は純正の補修部品を使用してください。また、メンテナンススケジュール上で（*）マークで示した個所については、正規販売店で作業を強くお勧めします。それ以外については、本項で示す解説に則って、個人で点検していただくことも可能です。ただし、このスケジュールにある点検を定められたとおりに実施されない場合、お使いのスクーターへの保証は提供できないことがありますこと、予めご了承ください。

メンテナンススケジュール

このスケジュールに示す各項は、当該点検タイミングで行うべき最も重要な項目です。必要に応じて、また車両の状況に応じて点検範囲は適宜広げてください。

表中の略語：

I: 点検、清掃、調整、注油、必要に応じて交換

C: 清掃

R: 交換

A: 調整

L: 注油

* 4,000 km 走行ごとに点検

** 2年ごとに必ず交換

*** 4年ごとに必ず交換

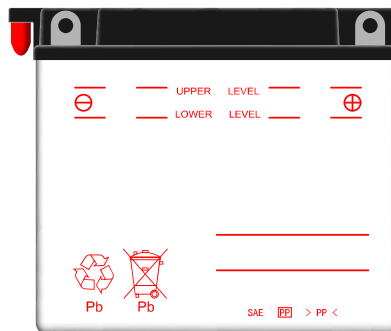
	600 miles (1000 km)	2500 miles (4000 km)	5000 miles (8000 km)	7500 miles (12000 km)	10000 miles (16000 km)	12500miles (20000 km)	15000 miles (24000 km)	17500 miles (28000 km)	20000 miles (32000 km)	22500 miles (36000 km)	25000miles (40000 km)
トルクカムと周辺部品			L		L		L		L		L
締結部品のゆるみ、規定トルク	I		I		I		I		I		I
ベルトカバー内のスライダー		R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
クラッチペダル		C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
スパークプラグ			R		R		R		R		R
V ベルト			R		R		R		R		R
スロットルコントロール	A		A		A		A		A		A
エアフィルター		C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
トランスミッションカバー/エアダクトフィルター			I		I		I		I		I
エンジンオイルフィルター	R		R		R		R		R		R
バルブクリアランス			A		A		A		A		A
ブレーキシステム	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
電装品とバッテリー	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
ブレーキフルード **	I		I		I		I		I		I
ギアオイル	R		I		R		I		R		I
エンジンオイル*	R	I	R	I	R	I	R	I	R	I	R
ヘッドライトの向き調整			A		A		A		A		A
ウェイトローラー			R		R		R		R		R
試運転	I		I		I		I		I		I
ドライブ (フリー) フェイス			I		I		I		I		I
ラジエーター	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C
タイヤ&ホイール	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
サスペンション			I		I		I		I		I
ステアリング	I		I		I		I		I		I
トランスミッション (CVT)			L		L		L		L		L
燃料ホース***	I		I		I		I		I		I
ベアリング	I	I	I	I	R	I	I	I	I	R	I

トルク管理表

ボディと各部を締結しているボルト類のトルク管理を、初回は 1000 km 時に、その後 4000 kmごと、あるいは 6 か月ごとに行ってください。

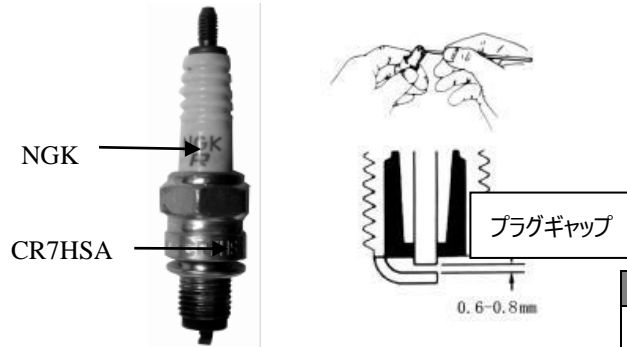
No.	Item	Nm	Kg/m
1	フロントアクスルナット	53	5.3
2	ハンドルバーマウントボルト	49	4.9
3	ステアリングステムロックナット	30	3.0
4	ハンドルバー固定ボルト	25	2.5
5	フロントフォークマウンティングボルト	45	4.5
6	マスターシリンダーマウンティングボルト	10	1.0
7	ブレーキホースユニオンボルト	23	2.3
8	ブレーキキャリパーマウンティングボルト	26	2.6
9	ブリーディングバルブ	7.5	0.75
10	フロントパネルボルト	23	2.3
11	リアアクスルナット	100	10.0
12	リアショックボルト	40	4.0
13	リアブレーキレバーナット	11	1.1
14	エンジンブラケットマウンティングボルト	98	9.8
15	エンジンマウンティングボルト	80	8.0
16	アンチドライブレバーアッセンブリ	26	2.6

バッテリー



バッテリーはシート下、ボディ中央の取り外し可能なカバーの奥に位置しています。バッテリーはメンテナンスフリーのシールドタイプバッテリーで、液面や縦横上下などを管理する必要はありません。

スパークプラグ



小型の銅製のブラシなどを用いて、初回 500 km、その後は 3000 kmごとに、プラグの電極周辺に付着したカーボンなどの堆積物を清掃してください。スパークプラグギャップ（図示）を 0.6-0.8 mmに調整しましょう。6000 km走行ごとに、プラグは新品に交換してください。

カーボンの堆積物を取り除く際には、スパークプラグの電極部分の色にも注目してください。電極の色は、標準のスパークプラグがお使いのシチュエーションに合致しているかどうかを見極めるヒント

になります。もし電極が黒くすぶっていた場合、近距離の使用に限られ、エンジンが十分な温度に達していない使い方が疑われます。こうした場合は熱価の高いプラグを使用しましょう。正しく選択されているプラグは、明るい茶色（きつね色）をしているものです。プラグが白くなっている場合は、オーバーヒート気味か燃料が薄いことを意味しているため、車両を正規販売店に持ち込み、点検してもらう必要があります。

⚠ 注意

スパークプラグの締め付け過ぎには十分注意しましょう。シリンダーヘッドに損傷を与えないためにも、スパークプラグホール（穴）から異物がシリンダー内に落ちたりしないよう十分注意してください。

このスクーターに用意された標準スパークプラグは、ほとんどのスクーターの動作環境を満たすように選ばれたものです。もしスパークプラグの焼け色が、標準プラグ以外の使用を求めるほどに変化していた場合には、プラグを交換したり番手を変える前に、一度お買い求めの販売店に相談しましょう。不適切なプラグの選択は、エンジンに深刻なダメージを与える可能性につながります。

燃料ホース

2年ごとに必ず燃料ホースは交換すること

エアフィルター

このスクーターに採用されているエアフィルターエレメントは、ポリウレタン製のエレメントです。もしフィルターエレメントがほこりなどで目詰まりしてしまうと、吸気抵抗が増えるため、空燃比が濃くなり、結果として出力の低下と、燃費の悪化につながります。以下の手順に従い、エアフィルターエレメントを点検、清掃してください。

1. スクリューを緩める
2. フィルター固定スリッパを2か所、後方にスライドさせ外す。
3. エアフィルターカバーを外す。
4. フィルターエレメントを外す。

エアフィルターエレメントの洗浄

以下の手順に従ってエレメントを洗浄してください

- 十分なサイズのコンテナに不燃性の水溶性洗剤を入れ、フィルターエレメントを浸し、洗浄します。専用のフィルタークリー

ナー（MOTUL A1 Air Filter Clean を推奨）が望ましいでしょう）。

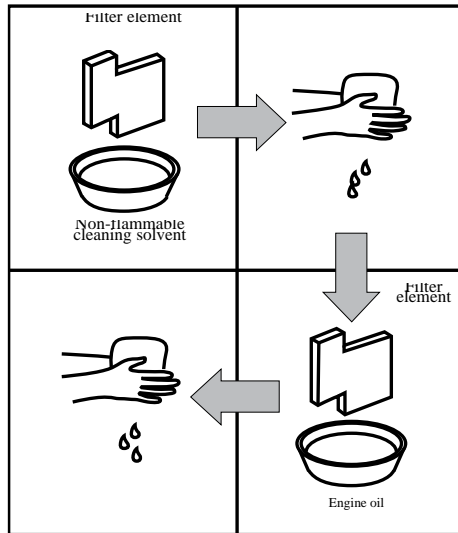
- 洗浄剤を両掌で押し出すようにして絞り出します。決して絞ったりしないこと。
- ぬるま湯でよくすすぎ、エアーやドライヤーを用いて乾燥させます。
- フィルターにエンジンオイルを含ませます。余分なオイルは残さないようにしましょう。適度に湿っているのが適切な油量です。エンジンオイルではなく専用のフィルターオイル（MOTUL A3 Air Filter Oil など）を使っていただくより完全です。
- 仕上がったエアフィルターエレメントを取外し時の逆の手順で取り付けます、エレメントが正しく装着され、隙間などなく確実にシールされていることを確認してください。

注意

エアフィルター洗浄中に、エレメントの状態をよく確認してください。ほつれ穴あきなどがあるエレメントは、必ず新品に交換すること。運転環境が埃の多い環境の場合、エアクリーナーエレメントはより頻繁に洗浄すること。

決してエアフィルターなしにエンジンを始動しないこと

フィルターエレメントなしでエンジンを始動することはエンジンの摩耗を著しく進行させます。フィルターエレメントは常に最善の状態に保ちましょう。エンジンの寿命はこの小さな部品に大きく左右されます。



アイドルリングの調整

エンジンを始動し、暖気します。

- エンジンの暖気完了後、スロットルストップスクリューを回し、アイドルスピードを 1,700~1,900rpm.に調整します。
- 外付けの回転計がある場合はそれを確認しながら調整するとより確実です。アイドル調整は必ず暖気終了後に行ってください。

スロットルケーブルの調整

ロックナットを緩めます。

遊びを 0.5-1.0 mmの範囲に調整します。アジャスターを回転させ、適切な遊びになるよう調整してください。

ロックナットを再び締結しましょう。

ブレーキフルード

ブレーキフルードは前後とも DOT 4.1 グレード（グリコール・ベースの油圧ブレーキ専用フルード、MOTUL DOT3&4）を使用すること。シリコンベース、あるいはミネラルオイル・ベースのフルードと混在させないこと。ブレーキフルードの異種混用はブレーキシステムに深刻なダメージを与える可能性があり、また制動力が大幅に減じられる恐れがあります。加えて、過去の整備などで使った残りのフルードなどを使用しないこと。ブレーキフルードは吸湿性が高く、ひとたび開封したフルードは所定の能力を発揮しません。

タイヤ

走り出す前には必ずタイヤの空気圧の点検と、タイヤ表面に異物がなにかの点検を行うこと。安全性の観点から、またタイヤの寿命からも、タイヤの空気圧は定期的に点検し特に長距離のツーリングや二人乗りの前には十分注意すること。

点検とメンテナンス

タイヤ空気圧

不十分なタイヤ空気圧は、タイヤの寿命を縮めるばかりか、スクーターのスタビリティに深刻な影響を与えます。空気圧が低すぎるとコーナリングは困難になり、高すぎると接地面が減って、滑り出したり操作不能になりがちです。タイヤ空気圧は指定の範囲内にあるように十分注意してください。また、タイヤ空気圧は冷間時に測定してください。

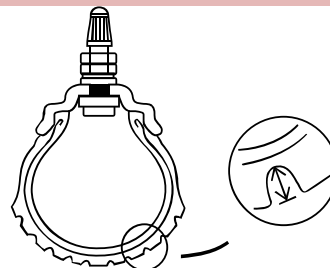
冷間時のタイヤ空気圧

フロント	32psi
リア	34psi

注意

タイヤの空気圧とタイヤの状態は、スクーターが所定の能力を発揮し、また安全にご利用いただくためにも極めて重要です。タイヤの摩耗や空気圧は頻繁に点検するようにしましょう。

タイヤ接地面の状態の点検を



ひどく摩耗したタイヤでの運転はスクーターのスタビリティを損ない、操作不能へとつながりかねません。タイヤトレッド（溝）の深さが 1.6 mm またはそれ以下になる前に、タイヤは交換しましょう。

注意

このスクーターのフロントタイヤは 110/70-12、リアタイヤには 120/70-12 が指定されています。指定タイヤ以外のタイヤの使用は、車両とのクリアランスに問題が生じる恐れがあるほか、保証の適用外となります。

ヒューズ

ヒューズはバッテリーのすぐそばに配置されています。電気系統の不具合の場合、まずはヒューズを点検してください。もしヒューズが焼けてしまった場合、10A の予備ヒューズがヒューズホルダーに用意してあります。

⚠ 注意

ヒューズ交換の際には、必ず正しいヒューズを正しいアンペアで用意してください。決してアルミホイルやワイヤーのような代替物を使用しないこと。スペアヒューズに交換してもすぐにヒューズが切れてしまうような場合は、電装系にそのほかの問題が生じていると思われます。必ずお買い求めの販売店に連絡を取ってください。

トラブルシューティング

もしエンジンが再始動できない場合、まずは以下を確認してください。

サイドスタンドは完全に格納されているか？

バッテリーはエンジンを始動させるのに十分な電圧があるか？

燃料は十分に入っているか？

⚠ 注意

ガソリン漏れには十分に注意しましょう。特に熱を持ったエンジンやマフラー、イグニッションシステムに不用意にガソリンをこぼさないこと。また、煙草などの火器を決して近づけないこと。

スパークプラグを外し、プラグキャップに取り付けてエンジンに対し先端を押し当ててアースし、イグニッションスイッチを ON にしてエンジンをクランキングさせます。もし点火関係が正しく動作していれば、火花が明確に飛ぶはずで、火花が見られない場合、お買

⚠ 注意

スパークプラグをプラグホール近辺でスパークさせないこと、シリンダー内に残留したガソリンに引火する恐れがあります。漏電によるショックを抑えるため、スパークプラグの金属部分を確実に持ち、エンジンの塗装されていない金属面にきちんと接触させましょう。万が一のことを考え、ペースメーカー装着者や心臓に病歴のあるものはこの作業を行わないこと。

い求めの販売店に相談してください。

エンジンストール（停止）

- 燃料の供給経路の点検
- エンジンアイドルスピードの確認
- 点火タイミングの点検

⚠ 注意

いかなる問題においても、ご自身で解決しようとする前にまずはお買い求めの販売店にご相談ください。車体がまだ保証期間内の場合、販売店がまずは車両を点検し修理する必要があります。保証期間内でもしお客様個人が車両を修復したり手を加えたりした場合、保証が無効になる恐れがあります。

車両を保管する場合

冬季など、長期にわたって車両を使用しないで保管する場合、車両は知識のあるものが特別な道具を持って整備し対応する必要があります。このため、長期保管に当たってはまずは販売店に委託していただくことが間違いありません。もしどうしてもご自身で面倒を見なくてはならない場合、以下の各項を参考にしてください。

車体

車体をメインスタンドで立て、また全体を丁寧に掃除しましょう。

燃料

燃料タンクは空にしてください。

バッテリー

バッテリーをスクーターから取り外します。

バッテリーの外側を中性洗剤などで洗浄し、ターミナルやワイヤリングハーネスに錆が見られれば丁寧に取り除きます。取り外したバッテリーは0度以上の室温で保管し、かつ適切なトリクル充電器などにつなげておいてください。

タイヤ

タイヤ空気圧は規定値にしておくこと。

外装

ビニールあるいはゴム部品など（タイヤを除く）はゴム保護剤などをスプレーしておきましょう。

非塗装面の金属には、WD-40 や CRC-556 のような防錆剤をスプレーしておきましょう（ただしブレーキディスクやキャリパーにはかけないこと）。また、塗装面は高品質のカーワックスなどで保護してください。

*こうした作業は、正気保管の前だけではなく、まず Royal Alloy をご購入になった後の最初の仕事としていただければ、と考えます。長くお楽しみいただくための通常のケア&メンテナンスとしてぜひ。

再び走り出すための準備

スクーター全体を清掃しましょう。次いで、燃料を補給。満充電のバッテリーを装着し、タイヤ空気圧を規定値に戻します。最後に、本マニュアルに記載されているとおり、必要箇所すべてを潤滑しましょう。

始業点検の項目をよく確認してください。

諸元表

モデル名	TG125
寸法 (mm)	1845×670×1115
軸距 (mm)	1390
車両重量 (Kg)	122
最大荷重 (kg)	340
燃料タンク容量 (L)	10.5
エンジンモデル名	1P52QMI
アイドリング回転数	1600 ±100 rpm
エンジン型式	空冷単気筒
内径 × 行程 (mm)	52.4×57.8
総排気量 (ml)	124.6
圧縮比	10.5:1
最高出力 (kW/r/min)	7.2/7500
最大トルク(Nm/r/min)	9.2/7000
始動方式	セルフスターター
エンジンオイル(950ml)	SAE 10W-40 MOTUL Scooterpower LE
潤滑方式	圧送飛沫式
トランスミッションオイル	EP 80w-90 (170ml) MOTUL Gearbox
燃料	95 オクタン以上

タイヤサイズ	
フロント	110/70-12
リア	120/70-12
タイヤ空気圧:	
フロント	32 PSI
リア	34 PSI
フロントブレーキ	ディスクブレーキ
リアブレーキ	ディスクブレーキ
スパークプラグ	NGK CR7HSA
ヘッドライト	12V 20W/10W LED
ウインカー	12V LED
テール/ストップ	12V LED
インストゥルメント	12V 3W
インジケーター	12V 9Ah
バッテリー容量	10A
ヒューズ	12V1.5A
ホーン	90-100dB(A)
最大騒音値	≤7m ≤82dB(A)

MEMO:

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

Owner's Manual



RA Engineering Co., Ltd



A Real Classic



Royal Alloy
www.royalalloy.com

TG125
Owner's Manual